

2.4 保健活動の結果を評価するスイス・アーミー・ナイフ：ICF

現在の保健情報システムは、どのような成果を達成できるかを証明するための評価が求められる段階にある。保健は改善されるのか。保健の結果を評価するには、共通の基準が必要である。たとえば、白内障がなくなれば、視力がよくなり、ヒザを取り替えれば動きがよくなる。さまざまな保健分野とその詳細項目は、ICF（国際生活機能分類）によって分類が行なわれた。

WHOは、10年にわたる一連のフィールド・テストの後、2001年末にICFを刊行した。以前のInternational Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps (ICIDH) (WHO, 1980)の後、ICFが取って代わった。ICFは、複数の言語で作成され、アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語の6つのWHO公式言語で同時に出版された。2001年以降には、他の28言語のバージョンが準備されている。

ICFは、この分野の共通フレームワークの必要性を強調しているが、普及には、概念上のツール以上のものが需要である。ICFの活用分野は幅広く、各種調査、人口調査、統計、保健、社会保障、教育、労務、その他、多数の活動が含まれる。開発作業では、情報の共有、教育資料の作成、評価ツールの調整、フィールドでの使用評価などを確保し、総合的にダイナミックな普及戦略を開発する必要がある。